学推だより

NO.5

平成２６年10月22日
与儀小学校
学力向上推進主任

頭をよくするため。考える力を養うため。
人間は言葉を使ってものを考える。
その言葉を増やす最もよい方法が『読書』なのです。

★なぜ読書をするの・・・

① 国語の力を育てる。（読解力がつく）

国語は全ての教科の基礎になります。国語の力が弱ければ図書館に行って調べ学習をしても、うまく答えを見つける事ができません。また、算数の四則計算ができても、文章題は解けません。文章の中から、要求した答えを捉えることは大事です。その力（読解力）が身につきます。

② 心をきたえ、想像力が身につく。（豊かな情操を育むことができる）

登場人物と自分の考えを比較し、時には批判し、時には同調し自分自身の考えを確立することができます。また、マンガと違い、絵が無いため文章から場面を想像するため、想像力が増します。

③ コミニュケーションの力がつく。（話し書く力が身につく）

語彙力が増え、「話す言葉」・「書く言葉」の力がつき、相手とのコミニュケーション能力が身につきます。

④ 知識を増やすことができる。

理科や社会科に関する本を読む事で、知識が増えテストの点のアップに役立ちます。

⑤ 未来･過去へと仮想体験ができる。

本は未来の事や過去の事が言葉巧みに書かれています。その文章を読むことで、未来へ過去へ自由に冒険することができます。

⑥ 間接体験ができる。

本は作者が体験した様々な体験が、効果的に表現されています。その本を読む事で、直接体験できない、様々な間接体験ができます。

★家庭読書のススメ！

① 家庭読書が親子の語らいの場となる。

本を親子で読み合い、それについて話し合うことで親子の語らいを築くことができます。

② 読書の時間をとりやすい。

学校においては、読書の動機づけはできても分刻みで生活しているため、読書をさせる時間を確保することが難しい状況にあります。しかし、家庭においてはエ夫すれば多くの時間を確保できます。

③ 親子･兄弟で読み聞かせをすることで、音読指導に役立つ。

お母さんが洗い物をしながら、子どもが本を読む。弟や妹に本の読み聞かせをすることで音読指導に役立ちます。

「読書や家庭読書」には上記のメリットがあります。読書の習慣化を図り、２学期以降の家庭読書につなげてみませんか。